

Topics | 東北

南北合同支部研究発表会—オンラインによる研究発表

姥浦 道生 東北大学

東北支部は、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟の6県内の学会員によって構成されている。東北地方は、その面積が広大であるのみならず、仙台を中心とした放射状公共交通ネットワークにより仙台以外の地域間の移動が必ずしも容易ではないという特性を有する。そのため、毎年年度末に開催している支部研究発表会は、南北分離開催と仙台合同開催を隔年で実施してきたところである。

しかし本年は、コロナの影響によりオンラインでの開催となった。であれば、予定されていた南北分離開催の必要性はないということで、合同開催となった。

2月27日(土)に、9大学から出された41本の研究論文の発表が行われた。南北各大学の多様な研究が発表されたという意味では、オンライン実施の効果は大きかった。発表会自体はZoomのブレイクアウトルーム機能を用いて、3会場同時並行で行われた。学生発表が多かったが、皆さんの1年間でオンラインでの発表の経験を積んでいらっしやったよ

うで、ほぼ滞りなく行われた。また会場間の移動も、スムーズに行われた。このように、発表会自体はオンラインでも十分に開催できることが実証された。

しかし一方で、やはり研究発表会後のリアルな交流がないことは、寂しいものである。交流会における(答えはなかなか出ないのだが)研究会の延長戦、さらにはプライベートな会話など、(多少のお酒も飲みながらの)多様な交流は、一定の意義を持つ。

オンラインは広大な東北地方という空間を縮める効果は有するものの、“ラストワンメートル”を縮めることができない難しさを有するという点を改めて実感した発表会であった。

技術がこのような課題をクリアする日はいつだろうか。その時、我々が計画すべき都市空間とはどのようなものになっているのだろうか。

Topics | 関東

横浜市金沢区富岡でのゴルフカートによる輸送サービス「とみおかーと」

中村 文彦 横浜国立大学

京浜急行電鉄、横浜市、日産自動車そして横浜国立大学の共同研究プロジェクトとして、横浜市金沢区富岡地区の比較的勾配の多い住宅開発地で、駅と住宅地を結ぶゴルフカートによる輸送サービスの社会実験を2020年11月から2月にかけて実施した。

ゴルフカートを活用した社会実験は、岩手県釜石市や福井県永平寺町等が知られているが、横浜市での社会実験は、以下のような点で特徴的といえる。

第一に、実験期間を通して、地域の方々の理解と協力が大きく高まっていった点である。住民の70%以上が実験を認識していただき、運行ルート沿道店舗から待合・案内スペースを無償で提供していただいた他、地元中学校の地域学習における題材として取り上げられるなど、地域側も取り組みに対して主体的に関わる動きが生まれてきた。

第二に、悪天候時対応のため、先行事例でのファスナーつきビニールシートをやめて、住民の方々との意見交換会に基づいて、横浜国立大学の建築系学生の設計により、写真のよ

うなスライドドアを取り付けることができたことである。

第三に、ゴルフカートとして初めて緑ナンバーを取得できたことである。横浜市の地域公共交通会議での承認に基づき、2か月の無料運行の後に、運賃を支払うかたちで2か月間運行した。折からの緊急事態宣言発令中にもかかわらず、有料期間でも1日に約20人の居住者の利用があった。

このように、地域に支えられ、制度的に進展でき、車両も工夫できたこととこの社会実験の意義がある一方で、より一層、地域への浸透を推進することが課題と、関係者一同認識している。

